

(様式1)

## 平成22年度 学校経営計画書及び学校評価計画書

石川県立小松工業高等学校	
校長	宇都宮 博

### 1 教育目標

- ① 工業の専門高校として、地域産業の発展に貢献できる有為な産業人を育成する。
- ② 誠実を尊び、規律を守り、豊かな心、たくましい体力と実践力を持った人材を育成する。
- ③ 自ら専門技術の練磨を図り、科学的な探求心を持ち、創意工夫する人材を育成する。

### 2 中・長期的目標

#### (1) 学校の現状

- ① 時代のニーズに応えた6学科（機械システム、機械テクニカル、電気、電子情報、建築土木、マテリアル）を有し、実践的な工業技術や先端技術を身につけた地域産業をささえるスペシャリストを育成している。
- ② ものづくり人材の育成を主眼とした、「地元産業の発展に貢献できる意欲的な生徒の育成」を通して、地域から信頼されている工業の専門高校であり続けている。
- ③ 個に応じた進路実現を念頭に置き、きめ細かな学習指導や生徒指導を行うとともに、多彩な学校行事や部活動、生徒会活動等を通して、自律性に富み、豊かな心、たくましい体力を身につけた生徒の育成を目指している。

#### (2) 生徒に関する中・長期的目標

- ① 学校での授業・実習を基本にしなが、家庭学習を習慣づけることにより、基礎学力の定着を図る。
- ② 基本的な生活習慣を確立し、心身ともに充実した高校生活を送ることを目指す。
- ③ 専門教科・領域への興味・関心を高めるとともに、職場体験等を通して勤労観・職業観の育成を図る。
- ④ 学校行事、部活動、生徒会行事等の集団活動を通して、互いに協力することの大切さや、自己の役割と責任について自覚し、コミュニケーション能力の育成に努める。

#### (3) 教職員、学校組織等の望ましい在り方

- ① 教職員の意識改革を図り、学校経営計画書に基づき主任を中心とした教職員が一体となった機動的な学校組織運営に努める。
- ② 授業公開や校内研修を充実させ、生徒の集中力が持続する授業を展開し、生徒の反応を測りながら、授業の創意工夫・改善に努める。
- ③ 保護者、地元企業、地域等に対して、様々な機会本校の教育活動を情報発信することで開かれた学校づくりに努め、地域への貢献を図る。

### 3 今年度の重点目標

- ① 保護者、地域社会及び企業等との連携を深め、個々の生徒の適性に応じた進路実現を図る。
- ② 部活動の活性化を図り、学校と家庭が連携し、生徒の基本的な生活・学習習慣の確立を図る。
- ③ 常に授業改善に取り組み、生徒が授業に集中できる多方面の方策を講ずること、資格取得やものづくりの実践的な技術を習得させる。

# 平成 22 年 度 学 校 評 価 計 画 書

石川県立小松工業高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	(評価方法)	
1 保護者、地域社会及び企業等との連携を深め、個々の生徒の適性に応じた進路実現を図る。	① 多様化する就職状況を適切に把握し、個々の生徒の適性に応じた進路実現を図る。また、適切な進路情報を積極的に提供していく。	進路指導課 学年会	今年度も厳しい求人状況が予想され、就職についてのきめ細かな指導が必要である。また、進学についても個々に応じた進路指導が求められる。	<努力指標> 進路達成率をみる。	生徒の就職・進学の実現について A 100%の達成率であった。 B 98%の達成率であった。 C 96%の達成率であった。 D 96%以下であった。	A段階を目指す。B以下の場合には適切な分析の上、次年度に生かす。	2月末での実績	
				<努力指標> 進路指導日より等の情報提供を実施する。	進路情報が生徒の進路選択に A 参考になり、十分役に立っている。 B だいたい役に立っている。 C あまり役に立っていない。 D 役に立っていない。	A+Bが70%以下の場合、検討を要する。前期、後期にアンケート実施。	生徒アンケート	
	② 保護者や地域に対して、学校教育活動の理解を求めるとともに開かれた学校としての地域連携に努める。	総務課 学年会	専門教育の内容や学校経営についての保護者との共通理解が必要である。また、教職員の地域連携に対する意識の高揚も求められる。	<満足度指標> 学校の方針を理解している。	保護者が本校の学校方針について A 十分理解している。 B だいたい理解している。 C あまり理解していない。 D 理解していない。	A+Bが70%以下の場合、検討を要する。前期、後期にアンケート実施。	保護者アンケート	
				<努力指標> 教職員自らが地域連携に積極的に取り組む。	教職員が地域連携に対して A 積極的に取り組もうとしている。 B まあまあ積極的に取り組もうとしている。 C あまり積極的ではない。 D 消極的である。	A+Bが70%以下の場合、検討を要する。前期、後期にアンケート実施。	教職員アンケート (自己評価)	
	2 部活動の活性化を図り、学校と家庭が連携し、生徒の基本的な生活・学習習慣の確立を図る。	① 部活動は、生徒ひとり一人の個性を生かし、人格形成にかかわるものとして、また、地域にアピールできる活動として内容を充実させ、実績を上げる。	生徒会 学年会	男子が約9割を占める本校において、県内での上位進出を目指したい。県高校総体男子総合7位に甘んじている。また、加入率が後半に低下する現状がある。	<成果指標> 県総体男子総合順位。	県総体男子総合順位について A 5位以上であった。 B 7位以上であった。 C 10位以上であった。 D 11位以下であった。	B段階を達成できない場合、次年度に向けて、活性化策を検討する。	高体連発表の実績
					<努力指標> 部活動加入率の状況を見る。	後期の部活動加入率について A 90%以上であった。 B 80%以上であった。 C 70%以上であった。 D 70%以下であった。	C以下の場合、次年度の改善策を検討する。	後期の実績
<満足度指標> 生徒が達成感を持って活動する必要がある。					生徒の部活動に対する充実感について A 十分に満足している。 B ほとんど満足している。 C あまり満足していない。 D 満足していない。	A+Bが70%以下の場合、検討を要する。前期、後期にアンケート実施。	生徒アンケート	

		②	保護者との連携を深め、生徒の健全な育成に関して積極的に取り組むことが大切である。また、基本的な生活習慣の確立にむけて教職員全体で取り組んでいく。	総務課 生徒指導 学年会	本校の実情を理解し、進路実現や個々の生徒の成長について保護者と連携を深める必要がある。	<p>&lt;成果指標&gt; PTA総会への積極的な参加を図る。</p> <p>&lt;努力指標&gt; 基本的な生活習慣の確立を推進する。</p>	<p>P T A 総会への参加が</p> <p>A 40%以上である。 B 30%以上である。 C 20%以上である。 D 20%未満である。</p> <p>教職員が生活指導（服装容儀、あいさつ）について</p> <p>A 積極的に取り組んでいる。 B だいたい積極的である。 C あまり積極的ではない。 D 消極的である。</p>	<p>B段階以下の場合、支部懇談会やクラス懇談会においての出席率の増加を目指す。</p> <p>A+Bが80%以下の場合、検討を要する。 前期、後期にアンケート実施。</p>	5月末の総会実績
		③	学習と部活動の両立は生徒の充実した学校生活に欠かせない要素であり、学習習慣の確立に向けて取り組む。	教務 学年会	家庭学習の確保が十分ではない現状がある。	<p>&lt;努力目標&gt; 授業以外での補習や家庭学習時間を確保する。</p> <p>&lt;努力指標&gt; 学習と部活動の両立についての意識が大切である。</p>	<p>生徒が授業以外での自主的な（補習含む）学習時間を目標1時間確保することについて</p> <p>A ほとんど達成できた。 B 週に2～3回達成できた。 C 週に1回程度達成できた。 D ほとんど達成できなかった。</p> <p>生徒が学習と部活動の両立について</p> <p>A 十分に意識して両立に努力している。 B まあまあ意識して両立に努めている。 C あまり意識していない。 D ほとんど意識していない。</p>	<p>A+Bが60%以下の場合、改善策を検討する。 前期、後期にアンケート実施</p> <p>A+Bが60%以下の場合、改善策を検討する。 前期、後期にアンケート実施</p>	<p>生徒アンケート</p> <p>生徒アンケート</p>
3	常に授業改善に取り組み、生徒が授業に集中できる多面の方策を講ずることで、資格取得やものづくりの実践的な技術を習得させる。	①	学力向上を目指し、教師が自らの授業を振り返り、「わかる授業」を目指して改善に努める。	教務 教科	教員相互の授業公開を実施したり、各種の研修に積極的に参加することが求められる。	<p>&lt;努力目標&gt; 相互の授業参観を積極的に実施する。</p> <p>&lt;成果指標&gt; わかる授業を実践する必要がある。</p>	<p>教師相互の授業参観について</p> <p>A 年間5回以上実施できた。 B 年間3回以上実施できた。 C 年間1回以上の実施であった。 D 実施できなかった。</p> <p>生徒が「わかりやすい授業」について</p> <p>A 非常に分かりやすいと感じている。 B だいたい分かりやすいと感じている。 C あまり分かり易くない。 D ほとんど分からない。</p>	<p>A+Bが70%以下の場合、検討を要する。 前期、後期にアンケート実施。</p> <p>A+Bが80%以下の場合、検討を要する。 生徒の授業アンケート実施。</p>	<p>教職員アンケート (自己評価)</p> <p>生徒授業アンケート</p>
		②	資格取得に対する意欲を高め、ジュニアマイスターポイントの提示をはじめとして、挑戦させる意識づくりが大切である。また、ものづくり教育を通じた工業高校としての技術を習得させる取り組みを推進する。	教務 学科	前年度の資格取得についての判定では目標をクリアすることができなかった。また、ものづくり大会での上位進出も十分ではなかった。	<p>&lt;努力目標&gt; 資格取得に向け生徒の意識を高める。</p> <p>&lt;成果指標&gt; ものづくり大会においての上位進出を目指す。</p>	<p>生徒が目標とした資格取得について</p> <p>A ほとんど取れて十分満足している。 B かなり取れてほしい満足している。 C 少ししかとれず、あまり満足していない。 D 不満足である。</p> <p>今年度のものづくり大会において</p> <p>A 全国大会で上位入賞することができた。 B 全国大会への出場ができた。 C 北信越大会に出場できた。 D 県大会出場にとどまった。</p>	<p>A+Bが60%以下の場合、検討を要する。 後期にアンケート実施。</p> <p>B以上を目指す。</p>	<p>生徒アンケート</p> <p>後期に実績報告</p>